

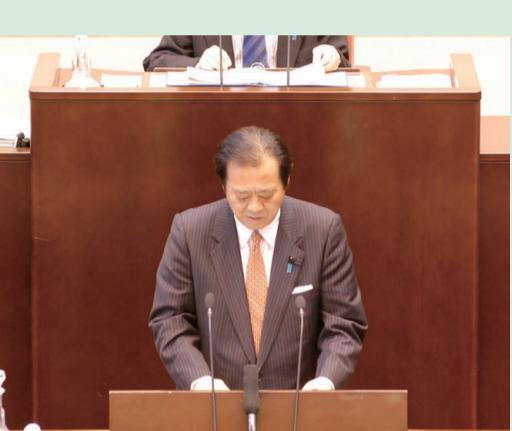
圃場は、田植えの頃の湖の水面のような状況から、どこまでも広がる緑の平原と化した光景が見られます。これから黄金色に変わり、やがて収穫の時期を迎えます。今年も豊作を祈念しております。今月号は、前回、前々回に引き続き、直近の県議会での質疑を中心にお伝えします。

## ウイズコロナ、ポストコロナでの企業支援のため、国、県と連携し全力を尽くします!!

新潟県議会議員 帆苅 謙治

**質問** 新潟県における圃場整備予算の使い方について伺います。

**答弁** 農業農村整備事業関連予算では、次の3つの項目すべてに圃場整備が位置付けられています。



県議会での質疑の模様

「圃場整備」について

県政便り8月号は、私が所属する新潟県議会産業経済委員会における直近の質疑応答の中から「圃場整備」に関する課題についてお伝えします。質問者はいずれも私 帆苅謙治、答弁は県の関係部局長及び課長です。

今年は梅雨が極端に短く、6月末から暑い日が続いている。地球温暖化による異常気象のため、全国各地しとしと雨がそぼ降るような天気は殆どなく、日照りが続いたかと思えば集中豪雨が到来するなど、千ばつと水害の両極が心配な今日この頃です。

県政便り8月号は、私が所属する新潟県議会産業経済委員会

低減を図るために大区画化、高収益作物への転換促進です。

1つ目が、生産コストの大幅低減を図るために大区画化、高収益作物への転換促進です。

2つ目が、主食米から麦、大豆、野菜等への転換を促進するための水田の汎用化です。

3つ目が、田んぼダム等による防災・減災、国土強靭化と災害復旧等の推進です。

このように、圃場整備により様々な効果が期待できます。

このように、圃場整備により事業の円滑な遂行には技術力のある職員が一定数必要と考えます。技術継承の方策について伺っています。

もう1つは、換地等を含む実施計画作成費用の全額国負担を要望しています。

事業の円滑な遂行には技術力のある職員が一定数必要と考えます。技術継承の方策について伺っています。

**質問** 県の財政健全化推進の中、農業関連予算だけを伸ばすのは困難では。県の実負担を増やすべく事業量を確保する手立てについて伺っています。

**答弁** ご質問のように、農業予算を増やすには国の補助が必要の条件です。しかも補助率の高い事業をお願いしています。

**質問** 圃場整備工事平準化のための15ヶ月予算は非常に有効と考えますが、これまでの執行状況と今後について伺います。

**答弁** 予算の執行状況は目標以上を達成しています。今後とも、予算の着実な執行により圃場整備事業の推進に努めてまいります。



緑の平原から間もなく黄金色へ

**質問** 新潟県における圃場整備予算の使い方について伺います。

**答弁** 農業農村整備事業関連予算では、次の3つの項目すべてに圃場整備が位置付けられています。

**質問** 圃場整備前(一反の圃場)

**答弁** ご質問のように、農業予算を増やすには国の補助が必要の条件です。しかも補助率の高い事業をお願いしています。

**質問** 圃場整備後(一区画が広い)



圃場整備前(一反の圃場)



圃場整備後(一区画が広い)

**質問** 令和4年度予算はどのようない点に配慮したものかについて伺います。

**答弁** 圃場整備の目的も、農地の集約化とスマート農業推進、農業施設の老朽化対策、防災減

**質問** 国の有利な制度を活用するとしていますが、具体的にどのような検討をしているかを伺います。

**答弁** 農地中間管理機構の事業は国の補助率が高いです。県が進める新規圃場整備6箇所中5箇所で利用しています。これにより、県、農家負担の一層の低減を図り事業量を増加させてまいります。

の集積・集約化を加速化するた

め、農地中間管理機構が借り入

れている農地について、農業者

の工事に係る費用負担を求めず

に実施するものです。

災と国土強靭化対策等多岐にわ

たります。特に、防災対策につい

ては国の「5か年加速化対策」を

使つて整備を進めます。

この5か年加速化対策とは、

2020年度で期限を迎えた國土強靭化緊急対策について5年

の期間延長と、15兆円の予算の

積み増しを行う「防災・減災・國

土強靭化のための5か年加速化

対策」とのことです。

## えだまめ集出荷場が 本格稼働！

以前から、何回か紹介をしてきました「ささかみ えだまめ集出荷選別施設」が7月11日より本格稼働しました。稼働間もない7月13日に同施設を編集スタッフが訪問し、新潟かがやき農業協同組合ささかみアグリセンターの一ノ瀬係長さんと石山調査役さんから最新設備や作業の流れについて説明を受けました。枝豆の収穫から出荷までの流れは凡そ次のとおりです。



①枝豆の収穫は前日の午後2時頃(最も熱い時間帯)から行われ、施設に搬入されます。そこで洗浄、脱水作業を行い、一旦予冷庫に入れます。次に、フルカラーカメラとX線センサーを備えた最新

④その後、自動計量機、金属検出器、ウエイトチェックを通過して袋詰めされ製品として箱詰めされます。

⑤製品は一日製品予冷庫に保管され、計画的に出荷されます。

⑥一連の作業は主として最新鋭の機械設備により行われますが、やはり人の手を加えることにより、品質の良い枝豆が生産されます。



③しかも、気温の高い午後採りにより甘味の乗った枝豆が収穫でき、予冷庫を使うことにより、鮮度を保ち品質の良い枝豆が出荷できること。

④通常、廃棄したり、タダ同然で買い叩かれる規格外品は、B製品として別途袋詰めされ消費者に安く提供される。これによりフードロスを解消していること。

①手づくりの有機肥料と米ぬかをたっぷり使い甘味を引き出す栽培に徹していることです。

②過重労働により生産農家が減少している朝採り出荷を採用せず、前日午後の収穫と翌日午前の選別・製品化作業により労

## 全市民、友と友、手を取り合い、阿賀野市活性!

### 市民の声

吉原 フミ子(畠江)

官庁・民間企業の数%を障がい者雇用でという政策が立ち上がっています。健常者と非健常者の垣根を低くする試みとしてとてもありがたいことです。

ただ、障がい者のなかには自宅で働くことを主にして、またに事務所に出向いて仕事をしたいと考える方もおられるはずです。働き方は、まさにその人の「個性」に関わることだからです。

このことから、行政の皆様には、これまでの福祉作業のそ野を拡げるという視点だけでなく、「通常業務」に従事する障がい者を支援する(テレワーク)という支援の在り方を検討していただきたいと切に願います。

以上のように、SDGsに相応しい方法を用いることにより、品質の良い枝豆が生産されています。

今年の枝豆は天候に恵まれたため、大粒で甘味のある美味しい枝豆に育っているそうです。阿賀野市の「ブランド」「えんだまく縁玉」と食べ、「儲かる農業の実現」を支援します。



障がいを意に介さずパソコン作業に専念

具体的には、先進的な取り組みを行っている企業を行政主導で障がい者とともに訪問し、その後、企業を加えた勉強会を市で計画していただく等があります。障がい者もパソコンの使い方を学ぶ機会があ

れば健常者と同様の仕事ができます。

行政が努力しても、肝心の会社が理解を示してくれなければ改革は進まないと言われ、そのとおりです。けれども、行政が本気になつて下さらなれば、障がい者支援はスタートが切れません。

誰もなりたくて障がいを負った人はいません。障がいといふつらい経験を持つているからこそ人に優しくなれる、これはもう、一つの個性です。その個性ある障がい者が、テレワークをしながら、得意分野を通じて、人に喜びを与えることができたら、それは障がい者本人にとって郷土で働くうえで大きな原動力になります。とどまらず、成果が社会貢献につながることもあると思っています。

大勢の方から沢山の反響を頂いています。

活動動画を発信しています。

阿賀野市が元気になる、提案・意見をお寄せ下さい。

特定の思想・主義の主張や、他者への非難や批判ではなく、あくまでも建設的な内容に限ります。文字数は400字程度です。

ほかりけんじ事務所  
〒959-2221 阿賀野市市保田 737-2  
TEL:68-5441 FAX:68-5515  
<http://www.hokaken.jp/>



○「ほかりけんじ・県政便り」は、新聞折り込みでお届けします。